

梅雨の季節です。様々な色に咲き誇ったアジサイが、爽やかな気分にしてくれます。現在会員登録数 4,673 人さま。次号は 7 月 22 日発行の予定です／

+----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----+

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

《6》富安陽子 IICLO ストーリーコンペ 第3回

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

+-----+

■-----■  
【1】お知らせ

●第161回日本児童文学学会関西例会

講演会「巖谷小波の俳句 - 「句会」仕立てで -」

講師：坪内稔典さん（俳人、京都教育大学名誉教授）

聞き手：宮川健郎さん（IICLO 理事、武蔵野大学名誉教授）

※小波の俳句 100 句から、3 句を選んでご参加ください。

研究発表「巖谷小波の俳句 - 巖谷家所蔵「巖谷小波絵はがきコレクション」を出発点として -」 発表者：土居安子（IICLO）

日時：7 月 11 日（土）13：15～16：00

会場：大阪府立中央図書館 多目的室 参加費：無料

主催：日本児童文学学会関西例会（IICLO 共催）

※詳細、お申し込みは→ <https://jkansaireikail61.peatix.com>

●オンライン講座「2025 年に出版された子どもの本から」申込受付中  
2025 年に出版された新しい子どもの本約 250 冊をテーマやジャンル、年齢別に紹介し、現在の子どもの本の傾向について考えます。

◇リアルタイム参加（Zoom）7 月 25 日（土）10：30～15：00（昼休憩あり）

質疑応答の時間あり。録画配信も視聴可。定員 80 人、参加費 1000 円

※お申し込みは Peatix から <https://2025kodomonohon-1.peatix.com/>

◇録画配信 8 月 7 日（金）～12 月 21 日（月）視聴料 1000 円

※お申し込みは Peatix から <https://2025kodomonohon-2.peatix.com/>

●《ご寄付をお願いします》当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701>

■-----■  
【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Noriko's Talk

\*\*\*\*\*

『ハウフ ショートセレクション 幽霊船の話』 ヴィルヘルム・ハウフ/作  
酒寄進一/訳 ヨシタケシンスケ/絵 理論社 2026年5月 対象年齢：小  
学校高学年以上

\* 今回のゲストは日中児童文学研究者の浅野法子（N）さんです。

概要：19世紀のドイツの作家ヴィルヘルム・ハウフの物語集。1825年～27年にかけて毎年一冊編纂刊行された『教養ある家庭の子どもたちのためのおとぎ話年鑑』から、魔法でコウノトリに変身してしまうバグダードのカリフと大臣の話「コウノトリになったカリフの話」、小さなムクをからかう息子に父親がムクの人生を話して聞かせる「小さなムクの話」、魔女に長い鼻を持つ人に変身させられた青年を描いた「鼻のこびと」、嵐で船が転覆し、幽霊船を見つけた青年と老僕の「幽霊船の話」、駆け落ちをした男女が島に家を見つけ、不思議な出来事を体験する「地霊こびとのお祭り」、医者になった青年が知らずに殺人を犯してしまう「切られた手の話」の6話はいっている。

Y：これまでも何度も訳されてきた5話に加えて、ヴィルヘルム・グリムから提供されたノルウェーの民話が元になった「地霊こびとのお祭り」が入ったアンソロジーです。

N：どの作品もおもしろく読みました。19世紀ロマン派の文学を反映したものでありながら、時代を超えて共感できる要素が含まれていると思いました。

たとえば、コウノトリに変身したカリフたちは、「笑ってはいけない」という掟を守れず、呪文を忘れ、人間に戻れなくなります。理性の象徴である言葉を失い、動物と化してしまう恐ろしさには息をのみますが、ユーモアを交えながら描き切るあたりは圧巻です。また、両親にも見分けがつかない「鼻のこびと」に変えられた青年のたくましさは、今の時代にも必要です。

Y：本来、『教養ある家庭の子どもたちのためのおとぎ話年鑑』は、すべて枠物語です。1825年版『隊商』は、隊商が旅をし、途中で盗賊に捕らえられ途中で「千夜一夜物語」のように、商人たちが語っていき、『アレクサンドリアの長老とその奴隷たち』（1826年）では、長老アリが奴隷たちに物語を語らせるという枠になっています。特に『隊商』は、枠物語と語られる物語に関連があり、構成の妙を感じます。この本を読んだ読者が、枠物語が翻訳されている本も続けて読んでくれたらいいなと思いました。

N：私が興味をひかれたのは、「訳者あとがき」にも書かれているハウフの時代についてです。ハウフの作品が出版される少し前からグリムが流行り、アンデルセンとハウフは同時期の作家でありながら、日本ではグリムやアンデルセンほど知名度は高くありません。作品数が少ないことにも関係していると思いますが、ハウフの物語には社会の残酷さが描かれているからでしょうか。冒険や異国情緒が感じられる作品としてもおもしろいのに残念です。実は、私の研究分野である中国でも、この状況は同じです。グリム童話やアンデルセン童話のほうがよく知られ、なかでもアンデルセン童話が高く評価されています。

Y：なるほど。興味深いですね。『図説翻訳文学総合事典』（川戸道昭・榊原貴教/編著 大空社 2009年11月）などを見ると、日本では、ハウフは明治20年には翻訳され、日本の児童文学の祖と言われる巖谷小波も「世界お伽噺」でハウフの作品を紹介しています。

N：大正期にも訳されていますね。今回、学生のころに読んだ大正期児童雑誌の黄金期との関連についても考えています。異国を舞台にした童話の構造

が好まれたのではないのでしょうか。

Y:『オールカラー版世界の童話 39 ハウフの童話』(小学館 1971年10月)には、「こびとのヤコブ」(=「鼻のこびと」)の再話者である安房直子があとがきで子どもの頃この話が好きだったと書いており、安房作品との関連を考えてしまいました。不思議でおもしろい物語としても、時代や受容を考える作品としてもハウフ作品は意義深く、アンソロジーがでてうれしく思いました。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第129回 「〔峯や谷は〕」

生まれ変わるテキスト

「峯や谷は無茶苦茶に刻まれ私はわらぢの底を抜いてしまっってその一番高いところから又低いところ又高いところと這ひ歩いてゐました。」——こう書き出される「〔峯や谷は〕」は、手もとのちくま文庫版『宮沢賢治全集8』では14行だけの断片のようなテキストです。この書き出しは、「マグノリアの木」(当メルマガ N0.170)を思い出させます。「マグノリアの木」の冒頭はこうです。

〈霧がじめじめ降っていた。

諒安は、その霧の底をひとり、険しい山谷の、刻みを涉って行きました。

沓の底を半分踏み抜いてしまいながらそのいちばん高い処からいちばん暗い深いところへまた谷の底から霧に吸い込まれた次の峯へと一生けんめい伝って行きました。〉

「マグノリアの木」では、「〔峯や谷は〕」の「私」が「諒安」に置き換えられ(このことによって「物語化」がはじまったのかもしれませんが)、「〔峯や谷は〕」の7~8倍の長さの作品として完結します。「マグノリアの木」の冒頭を書きかけて取りやめた反故の原稿用紙には、まだ、「私」と書かれていたようですが。

「〔峯や谷は〕」に差し込まれている短歌2首「けはしくも刻むこゝろのみねみねにさきわたるほゝの花はも。」「こゝはこれ惑ふ木立のなかならず忍びを習ふ春の道場。」も、少しだけ書き直されて「マグノリアの木」に生かされています。1首めの「ほゝの木」(ホオノキ)は、学名の「マグノリア」に置き換えられました。

いったん書かれたテキストが時間をおいて書き換えられるのは、賢治によく見られることですが、「〔峯や谷は〕」が、マグノリアの咲く場所に至る、悟りの道そのものを描いたような「マグノリアの木」に大きく生まれ変わったさまは、目を見張るようです。

「〔峯や谷は〕」は、表題もないテキストで、書き出しのことばを仮の表題にしたものです。〔 〕でくくられているのは、そのしるしです。「〔峯や谷は〕」は、盛岡高等農林学校時代の同人雑誌『アザリア』第6号(この号で廃刊)に掲載されました。1918(大正7)年6月に刊行されたと思われます。アザリアというのは、オランダツツジのことで、当時、高等農林の校庭に植えられていたということです。(馬車別当)

(本文の引用は、ちくま文庫『宮沢賢治全集8』によりました。)

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のことば 84

\*\*\*\*\*

「おまえはわるいやつだが、わしはどうも、おまえが気の毒になる。それに、いまの願いは愚かなものではないから、手をかしてやることぐらいは、せざるまい。いいか、ききなさい。おまえの心臓は、もう、力ではとりもどせない。が、知恵をつかえばとりもどせるし、そうむずかしくないかもしれないぞ。ミヒェルは昔から愚か者で、それはいまでも少しも変わっていない。自分では、おそろしくりこうだと思っているがな。だから、これからすぐミヒェルのところへ行き、わしがいうとおりにしてみろ。」

(「冷たい心臓 その二」 『冷たい心臓－ハウフ童話集－』 ヴィルヘルム・ハウフ/作 乾侑美子/訳 T・ヴェーバー/ほか画 福音館古典童話シリーズ 38 福音館書店 2001年9月 p.633)

対談で紹介したハウフの童話集です。この本は、『教養ある階級の家の子どもたちのためのおとぎ話年鑑』全3巻から、「グリムやその他の作者の作品」2つと「何も知らなかったユダヤ人、アブナーの話」以外の全訳になっていて、粹物語もすべて翻訳されています。

引用は、年鑑の第三巻「シュベッサルトの森の宿屋」に入っており、粹物語は、シュベッサルトの森の宿屋に泊まっている者たちが、眠ってしまって盗賊に襲われないように物語を語り合い、学生が語った「冷たい心臓」は語り途中でなくなったため、そのあと、盗賊に捕まっている間に後半を語ります。

黒森に住む16歳になる炭焼きのペーター・ムンクは、「ひどい人生」だと感じていてガラスの小人を呼び出して3つの願いのうち、金貨とガラス工場を願ってかなえてもらいます。しかし、一文無しになり、今度はオランダ人ミヒェルという森に住む悪魔のような大男に自分の心臓と引き替えにお金を受け取り、お金持ちになります。石の心臓を持ったペーターは結婚をしますが、貧しい人にパンをあげた妻を殺してしまい、「あたたかい心臓」を取り戻すために再度、ガラスの小人に会いにいきます。そこで、小人が言ったのが引用の言葉です。お金に欲がくらんだ主人公をガラスの小人が「気の毒になる」という点がとても心に残りました。そして、このあと、知恵を使ってあたたかい心臓を取り戻す様子もいきいきとして心が躍ります。死んだはずの妻と再会し、幸せな一生を送り、「わずかなもので満足しているほうが、いいんだよ。金と財産と、冷たい心臓を持っているよりは。」とペーターが言う結末は、いろいろな解釈があると思います。しかし、盗賊の恐怖に震えながらドラマチックな展開の物語を聞くという粹物語からも、人間の善悪について考えられる本作「冷たい心臓」からも、今読んでもおもしろいハウフ作品の力量を感じました。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》行って来ました！

\*\*\*\*\*

宝塚市立文化芸術センターで6月28日まで開催されている「原作出版80周年 きかんしゃトーマスの世界展 はたらく機関車たちのおはなし」に行ってきました。絵本原画、原作者の草稿、模型、台本、映像、ジオラマ、デジタルコンテンツなどが展示されています。

全体の構成は、「きかんしゃトーマス」シリーズの始まりが紹介され、初期の絵本原画が展示されている「ウィルバート・オードリーときかんしゃトーマス」、アニメーションのモデルなどが展示された「シリーズアニメーションの世界」、息子が書いたシリーズ続編について紹介した「父から息子へつなぐト

ーマスのおはなし。」、シリーズの舞台「ソドー島」や、絵本やグッズなどが展示された「愛され続ける、トーマスの世界」の4部構成になっていました。

シリーズの1作目は、牧師ウィルバート・オードリーが、息子クリストファーに語ったお話をもとにした「The Three Railway Engines」(1945年)です。トーマスが登場したのは、2作目「Thomas The Tank Engine」からで、それぞれ、最初に出版された時の画家からレジナルド・ダルビーの絵に変更されました。3人の絵を比べてみることによって、機関車のしくみや、機関車の表情の豊かさ、周りの風景など、ダルビーの絵がいかに魅力かが伝わります。日本では、ダルビーの絵で、1973年に『三だいの機関車』『機関車トーマス』(桑原三郎・清水周裕/訳 ポプラ社)として出版されました。

草稿にはオードリー自筆の絵があり、息子のために木で作った機関車にそっくりです。息子は、その機関車にトーマスと名付けていました。つまり、「きかんしゃトーマス」の世界は、著者と息子のごっこ遊びや語りの中から生まれたリアルな世界であるということがわかります。

アニメーションは、「きかんしゃトーマスとなかまたち」として、1984年にイギリスでモデルアニメーション化され、日本でも1990年から放送されたとのこと。撮影に使われた汽車の模型や、顔のパーツ、駅舎や石炭や積み荷などがあって、とても精巧にできています。アニメーションも上映されていたので、どのように撮影されたかもわかって興味深かったです。

イギリスの架空の島「ソドー島」の地図と、大きなジオラマは迫力があり、「トーマス」シリーズ全体を概観することができます。しっかりとした世界観があるからこそ、子どもたちに根強い人気があるんだなと思いました。(K)

宝塚市立文化芸術センター <https://takarazuka-arts-center.jp/>

\*\*\*\*\*  
《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち 第31回

\*\*\*\*\*

第6章 鳥越信先生

その3 児童文学研究のデザイン(続)

1979(昭和54)年11月、鳥越信先生(1929~2013年)が監修した児童文学史展のお手伝いで、鳥越先生といっしょに沖縄に行きました。私は、1年浪人して入学した大学院の1年次で、24歳でした。

この連載では、「思い出話」を語るだけではなく、私の出会った児童文学作家や評論家の仕事に対する考察や、さらには、そこから、現代児童文学史のとらえ直しも試みます。ご愛読ください。

今回で、第6章「鳥越信先生」はおわります。来月は休載させていただき、2026年8月配信の第192号からは第7章「天沢退二郎先生」です。

<本編はこちらから>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/watashinodeatta.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html)

\*\*\*\*\*  
《6》 富安陽子 I I C L O ストーリーコンペ 第3回

\*\*\*\*\*

第3回「富安陽子 I I C L O ストーリーコンペ」を開催中。

2つのキーワードを使った童話作品を募集します。400字詰め原稿用紙5~10枚で、未発表作品に限ります。

◎第3回のキーワード…「トビウオ」「くつ下」

応募締め切り：7月31日(金)

富安理事長がおもしろい作品5～6点を選び、メールマガジン N0.192 (8/20 発行) で発表。その後、読者にいちばんおもしろいと思った作品に投票していただき、1位と2位を決定します。

童話を書くのは初めての方も、腕だめしの方も、ぜひ、ご応募ください。

<詳細、応募方法はこちらをご覧ください>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/storycompe.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/storycompe.html)

### 【3】全国のイベント紹介

●JBBY 講座『『シュルヴィッツの絵本論』から学ぶ』

講師：さくまゆみこ (翻訳家)

日時：7月11日(土) 16:00～18:00 ※アーカイブ配信あり

会場：学研ビル 3階ホール〔品川区〕 ※定員150人、有料

主催：(一財)日本国際児童図書評議会 (JBBY)

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

### 【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『幽霊船の話』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ ご応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/uL2TpNhMEYWJpnQ9A>

締切は7月10日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

にわかサッカーファンになってワールドカップをテレビで観戦しています。日本も気になりつつ、世界の強豪プレイヤーの足さばきにうっとり。さまざまな国の対戦を見るたびに、世界の国々の平和と結び付けて考えてしまいます。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html)

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL: 06-6744-0581 FAX: 06-6744-0582 E-mail: office@iiclo.or.jp